

## 庄川大門大橋右岸ワンドにおける魚介類の生息状況

梅森 龍史<sup>1)</sup>・佐藤 久三<sup>2)</sup>・朝比奈 裕子<sup>1)</sup>  
<sup>1)</sup>アースコンサル(株)・<sup>2)</sup>富山県動物生態研究会

### 概要と目的

庄川は、その源を岐阜県の北西部荘川村の烏帽子岳(1625m)に発して、岐阜県内で尾上郷川、大白川等を合わせて北流し、富山県内に入り利賀川、和田川を合わせて日本海に注ぐ幹川流路延長115km、流域面積1189km<sup>2</sup>の河川である。

河川の景観は大半が山間渓谷で占められ、上流域の一部は国立公園や自然公園などにも指定されている自然の豊かな河川である。しかし、近年、河川改修やダム建設などにより、その姿は大きく変貌しようとしている。特に河川に生息する魚類の生育や繁殖にとって重要であると考えられる淵やワンドが少なくなりつつある。

庄川の中流域に架かる庄川大門大橋の右岸のたもとに庄川でも数少ないワンドが存在し、鳥類の餌場や魚類の重要な繁殖地となっている。ワンドの上流部分は庄川の本川と分断されているが、下流域より約0.16m/sの流速で、毎秒0.03m<sup>3</sup>の水が本川へ流れ出している。このことは、ワンド水域内の一部に庄川の伏流水が湧き出していて、その湧水が流れ出ているものと考えられる。ただし、湧出水量は夏季の水温が気温に影響されて上昇していることからみて、その量は少ないようである。

庄川本川の調査は田中(1993a)や環境庁(1987)により詳細に行われているが、前述したようなワンドの調査は未だ行われていない。そこで、本調査は魚類の貴重な繁殖地と思われる庄川大門大橋右岸にあるワンドについて魚介類の生息状況を把握するため四季を通じて捕獲調査を行った。

### 調査期間および調査時期

1994年1月より1994年10月までを調査期間とし、

四季ごとに1回の調査をおこなった。冬季調査は1月20日、春季調査は5月7日、夏季調査は8月16日、秋季調査は10月29日に行った。

各調査日の状況を表1に示す。

表1 地点の概要及び調査時の状況

河川名	名称	距離	標高	
庄川	ワンド	7 km	4 m	
冬 季	調査日 1994年1月20日			
	調査時刻 9:00~14:00			
	天候	雪	水温	8.4℃
	気温	2.0℃	pH	6.8
春 季	調査日 1994年5月7日			
	調査時刻 9:00~14:00			
	天候	晴	水温	14.2℃
	気温	22.0℃	pH	6.8
夏 季	調査日 1994年8月16日			
	調査時刻 10:00~15:00			
	天候	晴	水温	28.5℃
	気温	32.8℃	pH	6.9
秋 季	調査日 1994年10月29日			
	調査時刻 9:00~14:00			
	天候	晴	水温	17.0℃
	気温	16.0℃	pH	6.9

### 調査地域

庄川大門大橋下右岸のワンド(図1 調査地点位置図参照)。

### 調査方法

以下の3種の調査方法により捕獲調査を行った。

#### (1) 投網

岸より目合い12mmと18mmおよび27mmの投網を適

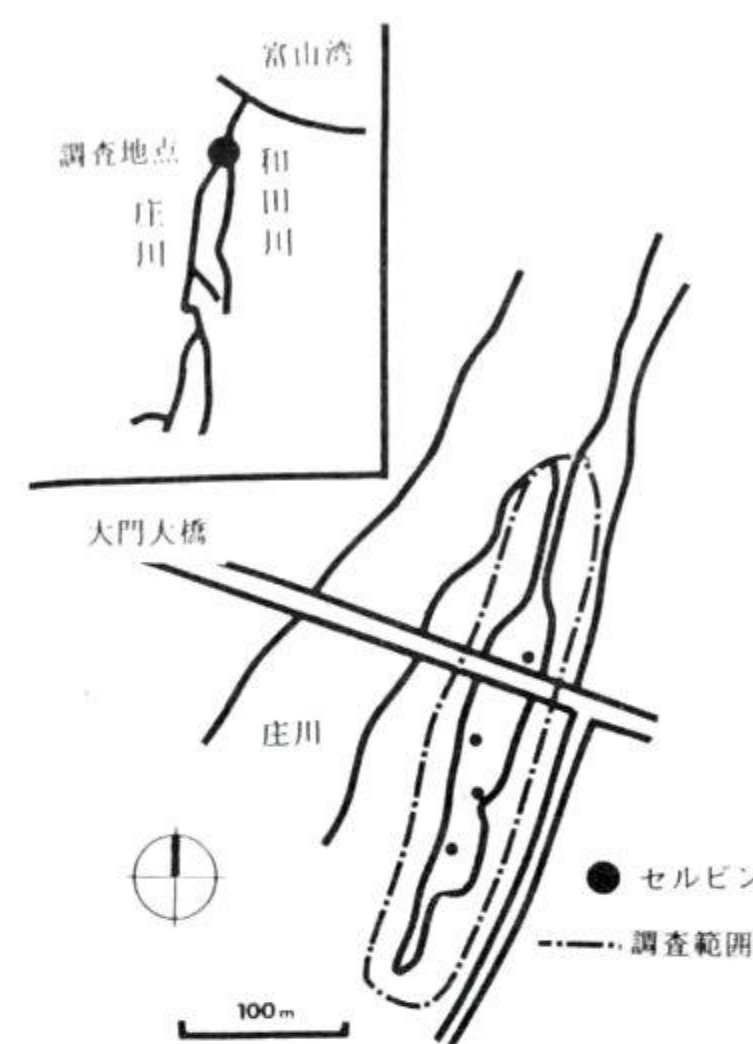


図1 調査地点位置図

時用いて打網した。打網回数は、約20回である。

#### (2) タモ網

目合い約10mm、直径35cmのタモ網を用いて、2人で約30分間行い、投網では対応できない石の下や水草の間などを重点的に調査した。

#### (3) ビンドウ

市販のダイトウ製おさかなキラー及びプラスモンドリ製タフビンの2種類のビンドウ合計4個を用いてワンドの下流から上流部の止水域に設置した。ビンドウは餌としてサナギ粉を用い、設置時間は冬季の調査のみ一晩とし、他の季節の調査は約3~4時間とした。

### 調査結果

調査結果を表2に示す。

本調査の内、冬季の調査では26個体の魚類を確認し、種数は10種であった。冬季の調査で最も多く確認された魚種はギンブナであり、ついでオイカワの順であった。

春季の調査では30個体の魚類を確認し、種数は6種であった。最も多く確認された魚種はウキゴリであり、ついでシマドジョウ、ギンブナの順であった。

夏季の調査では31個体の魚類を確認し、種数は8種であった。最も多く確認された魚種はトミヨであり、ついでギンブナ、ウキゴリの順であった。

秋季の調査では10個体の魚種が確認され、種数は4種であった。最も多く確認された魚種はオイカワであり、ついでウキゴリの順であった。

本調査全期間を通じて確認された個体数は97個体であり、種数は14種であった。最も多く確認された魚種はウキゴリ(21.6%)であり、ついでギンブナ(20.6%)、シマドジョウ(14.4%)の順であった。

### 考察

今回の調査で確認された魚種の内、特筆すべき魚種はトミヨであろう。トミヨは富山県自然環境指針の貴重な淡水魚類評価Ⅳに指定されている魚種で、水草などで巣を作り産卵することでも有名である。

また、その生息場所は平野部の湧水のでる場所に限られており、近年、生息環境の悪化から生息分布が縮小される傾向にある(田中等, 1993b)本調査におけるトミヨの確認は夏季の調査時のみであったが、ワンド内に湧水が存在していることと、ワンドの浅瀬に水草が繁茂していることなどを考え合わせると、今回の調査範囲であるワンドが県内でも数少ないトミヨの繁殖地である可能性は高い。また、近年、生息数が急激に減少してきているヤリタナゴも冬季の調査の際に確認されている。

ヤリタナゴは産卵の際、ドブガイなどの二枚貝を産卵床として利用することが知られており、今回の調査でドブガイの生息が確認されたことは、このワンドがヤリタナゴの繁殖地であることを示唆するものである。

今回の調査結果から本調査範囲であるワンド内の魚類生息密度はそれほど大きくはないが、そこに生息する魚種は狭い範囲ながら14種と豊かである。

また、富山県内でも生息数が急激に減少傾向にあるトミヨやヤリタナゴ、ヌマエビ、そしてメダカなどが生息する自然度の高い水域であると考え

## 平成6年度秋の野外観察会「境川ダム周辺」(10月23日)

若林 一成

表2 魚介類現地調査結果一覧表

生活型	NO	種名	庄川(右岸ワンド)				合計	%
			冬季	春季	夏季	秋季		
			94.1.20	94.5.7	94.8.16	94.10.29		
淡水魚	1	オイカワ	4	1	3	5	13	13.4
	2	ウグイ	3		1	2	6	6.2
	3	アブラハヤ	1				1	1.0
	4	モツゴ	1				1	1.0
	5	コイ			4		4	4.1
	6	ギンブナ	7	8	5		20	20.6
	7	ヤリタナゴ	2				2	2.1
	8	シマドジョウ	3	9	2		14	14.4
	9	メダカ	1				1	1.0
	10	トミヨ			10		10	10.3
	11	カムルチー			1		1	1.0
回遊魚	12	トウヨシノボリ	1	2			3	3.1
	13	ウキゴリ	3	10	5	3	21	21.6
	14	ヌマチチブ		2			2	2.1
個体数合計			26	30	31	10	97	
種類数合計			10	6	8	4	14	
エビ・カニ	1	ヌマエビ	+++	+++	++	++		
	2	アメリカザリガニ	+			+		
	3	モクスガニ		+		+		
	4	カワニナ	+					
	5	モノアラガイ			+			
	6	マシジミ	+	+				
	7	ドブガイ	+	+				

られる。

庄川や県内の河川では淵やワンドが急激な早さで減少する傾向にあるが、今後河川改修などを行う上で、魚類の生息環境を考慮しながら工事を行うことが望まれる。

### 謝 辞

今回の調査を行うにあたり計画の段階から貴重な意見を賜った富山大学教授田中晋氏に感謝いたします。また、同様に貴重な意見を賜った富山市科学文化センター学芸課長布村昇氏、ならびに主任学芸員南部久男氏に感謝いたします。

### 参 考 文 献

- 富山県(田中晋編), 1978. 富山県の陸水生物. 富山県.  
 環境庁編, 1987. 第3回自然環境保全基礎調査河川調査報告書北陸・甲信越版. (16)P53-62. 環境庁.  
 田中晋編, 1993a. とやまの川と湖の魚たち. P111-119. シー・エー・ピー. 富山県.  
 田中晋, 長井宗路, 1993b. 黒部川扇状地におけるトミヨ(トゲウオ科)の分布. 富山大学教育学部紀要, (43)P5-12.

(1994年12月30日受理)

### 1. 車 中

本日の講師であり、また、案内もしていただく本多省三先生の車に便乗させてもらい出かける。7時30分出発、快晴。

(1)「信仰と木彫りの里」井波町を通過。この町には、たくさんの末寺を持ち、浄土真宗(一向宗)の拠点「端泉寺」(真宗大谷派別院、1390年本願寺五世綽如創建)がある。

(2)「木と水のささやく町」庄川町の奥、庄川峡へと向かう。

### 2. 庄川峡と庄川ダム

峡谷の岩壁をぬって走る道路。その道路は土砂崩れや雪崩の災害から守る洞門がいたる所にある。車は少し開けた川岸段丘にある駐車場に入る。

そこは、庄川峡をさかのぼる遊覧船のよく見える高台である。そこに石仏、「恐ろしい不動明王」と「やさしい観音様」が並んで二つセメントの石祠の中に安置されていた。里と山とを画する境い目にふさわしい配慮である。

丁度、一隻の遊覧船は庄川ダムの湖面に水輪を作りながら走り、水鳥は群れを作って飛び去った。鳥は黒く、大きい「川鶴」の群れか?

合掌の村に入る。「岩魚直売店」、「籠ノ渡し」、たいらスキー場、地主神社、「こきりこの里」、「赤かぶの里」、「小夜投身のふち」等々の看板や標柱がよく眼にはいる。

### 3. 上平村役場(9時10分頃)

正面玄関前には、地元の名木「ブナの木」が千本も植えられ、その根元はツゲ、笹で飾っていた。少しさみしいが、味がある。その役場の駐車場広場の前に「細島念仏道場」がお宮の形で建っていた。そして、村のお年寄り、主に女性が集まり、静かに法要が営まれていた。正面にはられた横断

幕の裾には、「宗祖聖人七百回大遠忌法要記念」、寄進細島婦人会と記されていた。また、軒先につるされた小さい吊鐘には「正覚大音響流七方、越中五ヶ山 細島念仏道場」ときざまれていた。

当役場にて、本日の観察地点の資料を頂く。それから、創建の道宗は夜も薪の上に寝て、どうかすると歪む心を戒しめたという逸話が残る西赤尾の「行徳寺」、「合掌造りの里」を過ぎて、集合場所の「ささら館」に着く。

### 4. 「ささら館」

看板には、上平村営自然環境活用センターとなっている。しかし、一見ここはどこにでもあるような何でも売っている大きなスーパーである。だが、「郷土の自然環境—特産を生かした店」であり、しかも村が商売をしているのである。「村おこし」に村民全体の気持ちが反映しているようで微笑ましい。店先には、特産の「赤カブ」や「ナメコ」等が安く売られていた。

### 5. 境川総合開発事業「県営境川ダム管理事務所」

そこには、「資料展示室」もあった。ダム周辺の動植物が写真と共にわかり易く展示されていた。例えば、アザミとウスバシロチョウ。鳥では、ヤマセミ、オオルリ、キセキレイ、オオアケガ、サシバ、アカショウビンなど。

○このダムの目的……洪水調節、特定かんがい、水道用水、工業用水、消流雪用水、発電等の六つもの目的を持った多目的ダムである。

○その位置……左岸は富山県東砺波郡上平村桂、右岸は岐阜県大野郡白川村加須良といった県境に位置する。

その事務所のそばに克雪タウン計画の一つである「上平村立楽雪住宅」の広く大きいトタン葺きの屋根があった。屋根はカーブして、ややまるく、